

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25285246

研究課題名(和文)国語科教育改善のための言語コミュニケーション能力の発達に関する連携的・実案的研究

研究課題名(英文)Cooperative - the actual draft study on the development of language communication skills for language arts education improvement

研究代表者

植山 俊宏 (UEYAMA, TOSHIHIRO)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50193850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,100,000円

研究成果の概要(和文)：言語コミュニケーション能力の発達の解明を通して、国語教育の諸領域ごとの独自性と国語科以外の教科との連携について、実案の提案ができるように考究した。文学領域では、ヴィゴツキースペースを用いた汎用性のある読みの内実の解明を図り、国語科独自の領域の特性を見出した。また説明的文章領域では、科学的読み物(国語教材)と科学報告(自然科学の報告文章)という二種類の文章を用意し、その共通点と相違点について、教員のアンケート、中学校生徒の読みとりの違い、読むときの意識について調査、実験授業を行い、一定の提案的な知見を得ることができた。話すこと・聞くこと領域は、グループによる話し合いの生産性意識について調査した。

研究成果の概要(英文)：Through the elucidation of the development of language communication skills, for cooperation with subjects other than the uniqueness and language arts for each of the various areas of language education, and elaboration so that it can be a real draft proposals. In the literature area, we aim to clarify the low-down of reading that is versatile with Vygotsky space, and found the characteristics of the language arts own area. In the explanatory text area, scientific reading material (language teaching materials) and the scientific report prepared two types of sentence (Nature report sentence of science), about the similarities and differences, of the faculty questionnaire, of junior high school students read the the difference, investigate the awareness of when you read, do the experiment lesson, it was possible to obtain a constant of the proposed findings. In the region that listening, speaking, was conducted a survey on awareness of the productivity of the discussion by the group.

研究分野：国語科教育

キーワード：言語コミュニケーション 文学作品教材 説明的文章教材 教科間連携 教師アンケート 実験授業

1. 研究開始当初の背景

国語科教育改善のために必要な言語コミュニケーション能力の発達をふまえた、他教科との連携、及び実践現場に対する実案的な研究が乏しい背景があった。この研究課題に取り組むことで国語科教育が他教科との連携、そして実践現場との新たな有機的関係を構築できると見込まれた。

2. 研究の目的

国語科教育の主要領域、及び喫緊の課題を中心に領域班を組織し、研究に取り組み、他教科との連携が行われる可能性、実践的な提案、及び実践現場に実案として提示できるような単元、教材、授業計画案を提示することを研究の目的とした。

3. 研究の方法

各領域班において、基礎理論を構築した上で、それを実践理論化し、さらに教材開発、実験授業の実施へと進めることとした。

文学教材班は、国語科独自の領域としての特性をふまえて、基礎理論を立てて、文学の学習が本格化する中学校段階の実験授業を行うこととした。

説明的文章班は、他教科との連携を視野に入れ、説明的文章学習が他教科で活用されるために必要な要素を確保するための胎教しアンケート、インタビューを行い、実態を把握することとした。さらに自然科学の研究者の監修を得ながら、説明的文章教材の開発を行い、実験授業を実施し、検証することとした。話すこと・聞くこと班は、他教科学習に活きる話す・聞く学力、及び学力向上のための実験授業を実施し、検証することとした。

4. 研究成果

文学教材班では、基礎理論としてヴィゴツキースペース理論を求め、それを基に授業理論を立案していき、最終的に中学校文学教材を用いた実験授業を実施し、その検証を行い、大きな成果を得ることができた。

説明的文章教材班は、基礎理論としてQACモデルを基に教材の問題解決様式を追求し、一定の実効性が期待できる成果を得た。また、対教師アンケート、インタビューを実施、分析し、読み物として価値が高い文体(レトリカルな文体)に関心があること、他教科学習への汎用性が見通しが乏しいことを把握した。その上で、科学レポート的な文体の説明的文章教材を作成し、レトリカルな文体を用いた学習との比較を行った。その際、自然科学者の監修を得て、科学性を担保した科学レポート的教材を作成した。実験授業は中学校で実施し、両方のタイプの教材への反応の違いを把握することができた。

話すこと・聞くこと班では、グループ学習におけるコミュニケーションのあり方に取り組み、そこで働き論理的思考力の実態を把握することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計39件)

1. 山元隆春、「理解する」ことの学習のためにどのような授業が必要か - ジョアンナ・M・ジミー著『理解するための方法を絵本で教える』の場合 -、国語教育研究、査読無、56、2015、pp.206-218

2. 山元隆春・居川あゆ子、中学校国語科におけるリテラチャー・サークル実践の展開 - 「少年の日の思い出」を扱う単元の場合 -、学校教育実践学研究、査読有、21、2015、pp.35-45

3. 奥泉香・山元隆春、国語科における絵本を活用した意味構築の学習 - 登場人物の造型を検討する枠組みの整理と発問の開発 -、国語教育史研究、査読有、15、2015、pp.1-9

4. 若木常佳、授業場面における教師の「実践的思考様式」についての一考察、福岡教育大学紀要、査読無、64号4分冊、2015、pp.205-214

5. 若木常佳、教師のリフレクション力を高める方法について、教育学研究紀要(中国四国教育学会編) 査読無、60巻、2015、pp.206-211

6. 高橋由衣・宮本浩治、学び合いを生かした授業づくり、大谷大学国語教育研究、査読有、第2号、2015、pp.26-35

7. 砂川誠司、国語科メディア・リテラシー教育実践にける動機づけの構成 参加型の読みを実現する集団としての学習動機を共有する指導について、国語国文学報、査読無、第73集、2015、pp.53-66

8. 上田祐二、学習の状況に応じた柔軟な授業の展開 - 「学習計画表」の取り扱いをめぐる -、月刊国語教育研究、査読無、514、2015、pp.36-37

9. 坂東智子、大村はま古典学習指導の歴史的・現代的意義、山口大学教育学部研究紀要、査読無、64巻第一部、2015、pp.127-138

10. 山元悦子・松尾剛・若木常佳・稲田八穂・河野順子・幾田伸司・三浦和尚、小学生の話し合う力をどう見取るか - 発達研究に依拠した実態調査を手がかりに -、日本教科教育学会誌、査読有、第37巻第1号、2014、pp.53-62

11. 田中智生、社会的実践の場としての読むことの授業、月刊国語教育研究、査読無、501、2014、pp.36-37

- 12.田中智生、「書く」につながる「電子黒板+タブレット」活用のアイデア、教育科学国語教育、査読無、777、2014、pp.10-11
- 13.富安慎吾、国語学習における知識の創造を媒介するメディアについての検討：対話メディアとしてのパターンランゲージの検討を中心に、国語科教育、査読有、75、2014、pp.80-87、
- 14.守田庸一・奥知子、読むことにおける自己への眼差し、国語科年報・思草、査読無、第8号、2014、pp.1-11
- 15.守田庸一、説明文教材の冒頭を読む、語り合う文学教育、査読無、第12号、2014、pp.34-40
- 16.山元悦子・松中保明「小学校入門期の発達特性をふまえたコミュニケーション能力育成の研究 - 編み上げ型カリキュラム構築の試み - 」福岡教育大学紀要、査読無、第63号、第1分冊、2014、pp.95 - 117
- 17.田中智生、社会的実践の場としての読むことの授業・月刊国語教育研究（日本国語教育学会）査読無、501号、2014、pp.36-37
- 18.山元隆春、米国における理解方略指導の具体的展開：Hervey & Goudvis 編『解釈の道具箱』における「意味を推論する」授業の場合、論叢国語教育学、査読無、復刊4、2014、pp.47-63
- 19.砂川誠司、国定期国語教科書における写真教材の役割、愛知教育大学研究報告人文社会科学編、査読有、63、2014、pp.17-25
- 20.富安慎吾、知識の創造に資する方略記述実践についての検討：パターンランゲージという方法を中心に、国語科教育、査読有、74、2013、pp.30-37
- 21.植山俊宏、寺山修司短歌が働きかけてくるもの 教材の世界、国語科教育、査読有、74、2013、pp.8-10
- 22.植山俊宏、類比化による説明的文章の読み問題解決と表現の連鎖の統合、表現研究、査読有、98号、2013、pp.70-79
- 23.稲田八穂、人間関係をはぐくむ学級経営と国語科授業づくり - 「情動の実践」をめざして - 、広島大学大学院教育学研究紀要 第一部（学習開発関連領域）査読無、62、2013、pp.109-116
- 24.幾田伸司・小島明子・茂木俊伸 他7名、小学校国語教科書における「言語活動力」カリキュラムの検討、鳴門教育大学授業実践研究、査読無、第12号、2013、pp.45-53
- 25.田中智生、世界の「国語」教育事情 中華人民共和国・国語教室（大修館）第98号、査読無、2013、pp.40-42
- 26.上田祐二、情報を活用する力を支えるコミュニケーション意識、日本国語教育学会、月刊国語教育研究、査読無、第485号、2012、pp.4-9
- 27.上田祐二・成田麻友子、国語科におけるネットワーク・コミュニケーションの指導 - BBS での発言の仕方を考える学習の一事例 - 、北海道教育大学旭川校国語国文学会、旭川国文、査読無、25、2012、pp.1-14
- 28.山元悦子『「人と関わる言葉」の育ちを目指して - 5歳児にみられる説明表現の考察 - 』福岡教育大学幼児教育研究部報告書幼児教育研究集録、査読無、7、2012、pp.23-37
- 29.山元悦子、田丸隆子、「中学3年生の話し合い能力の育成に向けて - 協同性を基盤に論理的探究を行う話し合い能力を育てる - 」福岡教育大学紀要、査読無、第62号、第1分冊、2012、pp.69-86
- 30.寺田守、解釈を巡って対話する文学の授業の研究、京都教育大学紀要、査読無、122、2012、pp.11-26
- 31.若木常佳、北川尊士、稲田八穂（筑紫女学園准教授）話し合う力を育成する教材の研究 「台本型手びき」にキャラクターを設定した場合、福岡教育大学紀要、査読無、第62号第1分冊、2012、pp.87-95
- 32.若木常佳、横田純也、話し合う力を育てるための教材についての研究 教科書教材の分析と教材の開発を通して、福岡教育大学紀要、査読無、第62号第1分冊、2012、pp.97-108
- 33.守田庸一、評論・論説教材の関連性に関する考察、三重大学教育学部研究紀要、査読無、64、2012、pp.149-157
- 34.守田庸一、小学校から高等学校までを見通した説明的文章指導の必要性、語り合う文学教育、査読無、11、2012、pp.34-40
- 35.守田庸一、文学に哲学を見出す 文学教材と説明的文章教材の接点、国語科年報・思草、査読無、7、2012、pp.1-8
- 36.守田庸一、「読むこと」の授業における「思考・判断・表現」の学力育成 - 中学校の説明的文章教材とその学習指導について - 、日本語学、査読無、30-10、2011、pp.28-36
- 37.幾田伸司、語られなかった状況を読むことの可能性 物語テキストにおける登場人物の「不在」に着目して、国語科教育、査読有、70、2011、pp.28-37
- 38.田中智生、読むことの教育の構想、岡山大学国語研究、査読無、2011、pp.68-61(21-28)
- 39.富安慎吾、パターンランゲージを用いた国語科授業デザイン研究についての検討、国語

〔学会発表〕(計 36 件)

- 1.坂東智子、国語科教員養成課程で出会う『源氏物語』(2) 「国宝・源氏物語絵巻柏木二」を読む、中国四国教育学会、2014.11.16、広島大学教育学部(広島県東広島市)
- 2.坂東智子、国語科教員養成課程で出会う源氏物語(3) 「紅葉賀」巻 物語の記憶を読む、全国大学国語教育学会、2014.11.9、筑波大学(茨城県つくば市)
- 3.間瀬茂夫・守田庸一・宮本浩治、高等学校に置ける評論の読みの学力評価 学力調査による分析、全国大学国語教育学会、2014.11.8、筑波大学(茨城県つくば市)
- 4.山元隆春、読み書きカリキュラムにおける絵本の役割 - Frank Serafini(2014)Reading the Visual - を手がかりにして、全国大学国語教育学会、2014.11.8、筑波大学(茨城県つくば市)
- 5.宮本浩治・幾田伸司、多角的な教材分析力の形成を目指した国語科教員養成のあり方 「語り」概念に着目して、日本教育実践学会、2014.11.2、鳴門教育大学(徳島県鳴門市)
- 6.寺田守、話者の判断の表れた言葉に着目して「高瀬舟」(森鷗外)を読む、日本近代文学学会 2014 年度関西支部秋季大会、2014.11.1、京都教育大学(京都市)
- 7.坂東智子、国語科教員養成課程で出会う『源氏物語』(1) 「紅葉賀」巻 青海波を舞う光源氏、鳴門教育大学国語教育学会、2014.8.23、鳴門教育大学(徳島県鳴門市)
- 8.山元隆春、「読解力」育教材としての絵本の有効性 Janet Evans 編(2009)Talking Beyond the Page を手がかりとして、全国大学国語教育学会、2014.5.18、ウインクあいち(愛知県名古屋市)
- 9.坂東智子、7 枚の源氏絵で読む源氏物語、第 126 回全国大学国語教育学会、2014.5.18、ウインクあいち(愛知県名古屋市)
- 10.守田庸一・宮本浩治・幾田伸司・辻村敬三・植山俊宏・櫻本明美・三浦和尚、説明的文章教材観の再検討 「生き物は円柱形」をもとに、全国大学国語教育学、2014.5.17、ウインクあいち(愛知県名古屋市)
- 11.富安慎吾、秋山佳慧、浅野浩右、板倉直哉、片山佳澄、松本由美、漢字学習のためのパターンランゲージ、3rd Asian Conference on Pattern Languages of Programs、2014.3.7、国立情報学研究所(東京都千代田区)
- 12.富安慎吾、方略を支える信念を問題にする

- ことの意味についての考察：パターンランゲージの検討を通して、全国大学国語教育学会、2013.10.27、広島大学教育学部(広島県東広島市)
- 13.坂東智子、中学校国語年間カリキュラムに関する研究(2) 大村はまの昭和 54 年度 2 学期の実践を中心に、全国大学国語教育学会、2013.10.27、広島大学教育学部(広島県東広島市)
- 14.幾田伸司、物語テキストにおける語りの信頼度に関する一考察、全国大学国語教育学会、2013.10.26、広島大学教育学部(広島県東広島市)
- 15.砂川誠司、メディアを活用した授業における読者コミュニティ成立の条件 Jenkins, H. & Kelly, W. (Eds),(2013). Reading in a Participatory Culture を中心として、全国大学国語教育学会、2013.10.26、広島大学教育学部(広島県東広島市)
- 16.奥泉香・山元隆春、国語科学習において絵本を活用するための発問開発、全国大学国語教育学会広島大会、2013.10.26、広島大学教育学部(広島県東広島市)
- 17.稲田八穂、インクルーシヴ授業方法の検討 - 国語科の授業を通して、日本教育方法学会、2013.10.6、埼玉大学(埼玉県さいたま市)
- 18.山元隆春、絵本を用いた理解方略指導の実際：米国の事例を中心として、全国大学国語教育学会、2013.5.19、弘前大学教育学部(青森県弘前市)
- 19.富安慎吾、パターンランゲージによる方略記述実践の可能性：メディアとしての方略記述について、全国大学国語教育学会、2013.5.19、弘前大学(青森県弘前市)
- 20.坂東智子、中学校国語年間カリキュラムに関する研究(1) 大村はまの昭和 54 年度中学校 1 年生の実践を中心に、全国大学国語教育学会、2013.5.19、弘前大学(青森県弘前市)
- 21.住田勝・宮本浩治・秋森洋子・植山俊宏・守田庸一・幾田伸司・田中智生、社会的実践としての読むこと - 教室における話し合い活動はどのように文学の読みを拓くのか、全国大学国語教育学会、2013.5.18、弘前大学(青森県弘前市)
- 22.守田庸一・幾田伸司・田中智生・秋森洋子・植山俊宏・住田勝・宮本浩治、社会的実践としての読むこと - 教室における話し合い活動はどのように文学の読みを拓くのか、全国大学国語教育学会、2013.5.18、弘前大学(青森県弘前市)
- 23.富安 慎吾、パターンランゲージによる方略の記述に関する試み 小学校国語科教科

書における「話すこと・聞くこと」の検討を中心に、全国大学国語教育学会、2012.10.28、富山大学（富山市）

24. 幾田伸司、山元悦子、若木常佳、稲田八穂、河野順子、三浦和尚、小学生の話し合う力をどう見取るか 教科書学習用語に基づく指標の開発、全国大学国語教育学会、2012.10.28、富山大学（富山市）

25. 山元悦子、松尾剛、若木常佳、稲田八穂、河野順子、幾田伸司、三浦和尚、小学生の話し合う力をどう見取るか 発達研究に依拠した実態調査を手がかりに、全国大学国語教育学会、2012.10.28、富山大学（富山市）

26. 稲田八穂、国語研究者が教師や教師集団の学びにできることは何か - 小学校現場を離れた自分に関われること、全国大学国語教育学会、2012.10.27、富山大学（富山市）

27. 上田祐二、中学校におけるネットワーク・コミュニケーションの指導 - 読み手の意識化をねらいとした授業の検討 -、全国大学国語教育学会、2012.10.27、富山大学（富山市）

28. 寺田守、話者の判断や評価の表れる言葉に着目する文学教材の解釈 「走れメロス」(太宰治)の一文を読む、全国大学国語教育学会、2012.10.27、富山大学（富山市）

29. 若木常佳、言語活動の内実と充実を考える、第59回英彦山国語教育研究集会、2012.8.24、福岡県英彦山青年の家（福岡県田川郡添田町）

30. 寺田守、解釈を巡って対話する文学の授業、京都国語教育アセンブリ、2012.8.17、京都JA会館（京都市）

31. 若木常佳、北川尊士、稲田八穂、話し合う力を育成する教材の研究 台本型手びきにキャラクターを設定した場合、全国大学国語教育学会、2012.5.27、筑波大学（茨城県つくば市）

32. 富安慎吾、大学入学試験における漢文と現代文/古文の融合問題についての研究 昭和40年度・昭和41年度の比較を中心に、全国大学国語教育学会、2012.5.27、筑波大学（茨城県つくば市）

33. 山元悦子(福岡教育大学) 稲田八穂(筑紫女学園大学) 「小学校中学年の発達特性をふまえたコミュニケーション能力の育成に関する研究」、全国大学国語教育学会、2012.5.26、筑波大学（茨城県つくば市）

34. 稲田八穂、国語科教育と学級経営のはざままで - 「情動の共有」を問い直す、全国大学国語教育学会、2012.5.26、筑波大学（茨城県つくば市）

35. 富安慎吾、昭和40年代における漢文教育

思潮についての研究 科目「古典」の思想と評価に注目して、全国大学国語教育学会、2011.5.28、京都教育大学（京都市）

36. 山元隆春、「理解するとはどういうことなのか」、全国大学国語教育学会、2011.5.28、京都教育大学（京都市）

〔図書〕(計16件)

1. 宮本浩治、読むことの学習における教師の役割 指導言によって形成される読みの多様性と学習の深まり、国語教育学研究の創成と展開、溪水社、2015、pp.357-366(548頁)

2. 稲田八穂、インクルーシブ授業を実践する教師の力量 - 「暗黙知」の視点で実践を省察する -、インクルーシブ授業をつくる、ミネルヴァ書房、2015、pp.124-135(147頁)

3. 中西淳、「書くこと」の理論と方法(中学校)、中等国語教育、協同出版)、2014、pp.89-104(422頁)

4. 宮本浩治、国語科における授業と評価の実際、中等国語教育、協同出版、2014、pp.375-393(422頁)

5. エリン・オリヴァー・キーン(山元隆春、吉田新一郎訳)、理解するってどういうこと? - 「わかる」ための方法と「わかる」ことで得られる宝物 -、新曜社、2014、422頁

6. 山元隆春、読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり、溪水社、2014、335頁

7. 山元隆春、溪水社、読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり、2014、335頁

8. 位藤紀美子、植山俊宏、山元隆春、山元悦子、寺田守、三浦和尚、櫻本明美、田中智生、宮本浩治、幾田伸司、上田祐二、若木常佳、稲田八穂他、世界思想社、言語コミュニケーション能力を育てる、2014、320頁

9. 山元隆春編、中等国語教育(教師教育講座第12巻)、協同出版、2014、422頁

10. ジェニ・ポラック・デイほか(山元隆春訳)、溪水社、本を読んで語り合うリテラチャー・サークル実践入門、2013、191頁

11. 寺田守、児童にとっての読書の意味、読書で豊かな人間性を育む児童サービス論、難波博孝、山元隆春、宮本浩治編著、学芸図書、2012、pp.25-36(258頁)

12. 寺田守、特別支援教育と国語の授業づくり、特別支援教育ハンドブック、相澤雅文、牛山道雄他5名編集、クリエイツかもがわ、2012、pp.74-75(120頁)

13. 寺田守、読むという行為を推進する力、溪水社、2012、394頁

14. 難波博孝、山元隆春、宮本浩治編著、読書

で豊かな人間性を育む児童サービス論、2012、
258 頁、学芸図書

15. 寺田守編著、文学教材の解釈 2012、京都
教育大学国語教育研究会、2012、220 頁

16. 寺田守、読書とコミュニケーション、教
師コミュニケーション力、森山卓郎編著、明
治図書、2012、pp.46-47

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

植山 俊宏 (UEYAMA Toshihiro)

京都教育大学教育学部・教授

研究者番号：50193850

(2) 研究分担者

田中 智生 (TANAKA Norio)

岡山大学大学院教育学研究科・教授

研究者番号：00171786

三浦 和尚 (MIURA Kazunao)

愛媛大学教育学部・教授

研究者番号：40239174

幾田 伸司 (IKUTA Shinji)

鳴門教育大学学校教育学部・准教授

研究者番号：00320010

寺田 守 (TERADA Mamoru)

京都教育大学教育学部・准教授

研究者番号：00381020

中西 淳 (NAKANISI Makoto)

愛媛大学教育学部・教授

研究者番号：10263881

山元 悦子 (YAMAMOTO Etuko)

福岡教育大学教育学部・教授

研究者番号：20220452

稲田 八穂 (INADA Yaho)

筑紫女学園大学社会福祉学部・教授

研究者番号：20612518

砂川 誠司 (SUNAGAWA Seiji)

愛知教育大学教育学部・助教

研究者番号：20647052

宮本 浩治 (MIYAMOTO Kouji)

岡山大学大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：30583207

住田 勝 (SUMIDA Masaru)

大阪教育大学教育学部・教授

研究者番号：40278594

富安 慎吾 (TOMIYASU Shingo)

島根大学教育学部・准教授

研究者番号：40534300

上田 祐二 (UEDA Yuji)

北海道教育大学教育学部・教授

研究者番号：50213369

守田 庸一 (MORITA Yoiti)

三重大学教育学部・准教授

研究者番号：60325305

坂東 智子 (BANDO Tomoko)

山口大学教育学部・准教授

研究者番号：60634764

櫻本 明美 (SAKURAMOTO Akemi)

神戸親和女子大学文学部・教授

研究者番号：70319846

河野 順子 (KAWANO Junko)

熊本大学教育学部・教授

研究者番号：80380989

山元 隆春 (YAMAMOTO Takaharu)

広島大学大学院教育学研究科・教授

研究者番号：90210533

若木 常佳 (WAKAGI Tuneka)

福岡教育大学教育学部・教授

研究者番号：90454579

辻村 敬三 (TUJIMURA Keizo)

大阪成蹊大学教育学部・准教授

研究者番号：90712505

(3) 連携研究者 なし

()

研究者番号：